

抗が薄れた”パターンと表示する。

第3は、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」(97.6%)に加えて、「徐々に洗える日が多くなった」(65.1%)や「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」(64.5%)を伴っている。これに該当する事例が45件(21.4%)であり、“暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった”パターンと表示する。

第4は、「後ろ髪は嫌がらずに洗えた」(56.0%)、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」(55.9%)、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」(44.7%)、「徐々に洗える日が多くなった」(36.0%)などが複合されている。これに該当する事例が19件(9.0%)であり、“後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した”パターンと表示する。

第5は、「自分で洗髪するようになった」(62.0%)、「徐々に洗える日が多くなった」(47.6%)、「洗ってほしいと訴えることもでてきた」(25.3%)、「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」(23.7%)などで構成されている。これに該当する事例が18件(8.6%)であり、“洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった”パターンと表示する。(表2-6-3-5参照)

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、3クラスから5クラスまでの3モデルの情報量規準のAICが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される5クラスモデルを採用した。(表2-6-3-6参照)

### ③ 解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では5つの変化傾向がみられる。1つめは、解決前パターン4(複合的洗髪拒否)から、解決後パターン3(暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、解決前パターン1(入浴はするが、洗髪は嫌がっていた)から、解決後パターン1(徐々に洗える日が多くなった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

3つめは、解決前パターン1(入浴はするが、洗髪は嫌がっていた)から、解決後パターン5(洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

4つめは、解決前パターン3(脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた)から、解決後パターン2(入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

5つめは、解決前パターン2（手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり）から、解決後パターン3（暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった）へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。（表2-6-3-7参照）

次に高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）に限定してみると、上記5つの傾向のうち、1つめから3つめと5つめの傾向が認められるが、4つめの傾向は認められない。（表2-6-3-8参照）

高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）に限定してみるとやや違った傾向がみられる。全体でみた3つめと4つめの傾向はここでもみられるが、解決前パターン5（手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった）から、解決後パターン4（後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した）へと変化する傾向がみられ、有意水準1%で相関が認められる。（表2-6-3-9参照）

高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）に限定してみると、解決前パターン5（手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった）から、解決後パターン4（後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した）へと変化する傾向だけがみられ、有意水準1%で相関が認められる。（表2-6-3-10参照）

このように、解決前後の変化は高齢者パターンによってやや異なることがわかる。

#### (4) 高齢者パターン別にみた解決前後の状況

そこで高齢者パターン別にみた解決前後の状況を分析した（注2）。

解決前の状況は、高齢者パターン1（一部介助、中程度重症度）と高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）はほぼ似通った傾向であるのに対して、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）がやや異なっている。

高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）では、「顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた」（62.5%）と「大きな声を出して拒否していた」（60.9%）が際立って多く、他のパターンとの格差が大きい。また、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」（39.1%）、「入浴はするが、洗髪は嫌がっていた」（35.9%）、「脱衣することを嫌がった」（34.4%）の3項目が同程度の割合であがっているが、「湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった」が他の2パターンを大きく上回っている。（表2-6-3-11参照）

解決後の状況については、高齢者パターン3（自立、軽中程度重症度）で「徐々に洗える日が多くなった」（76.5%）が他の2パターンより多くみられる。また、高齢者パターン2（全介助、中高程度重症度）では、「洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した」（40.5%）が他の2パターンより多くみられる。（表2-6-3-

(注2) 潜在クラスとの関連分析には帰属確率を用いる

潜在クラスは各クラスへの帰属関係を確率的に表すことから、クラスと他の項目との関連分析に際しても、その確率で表すのが適切である。

例えば、ある事例の帰属確率が、クラス1に対して0.97、クラス2に対して0.03、(全クラスへの帰属確率合計は1.00である)となっている場合、関連分析する項目に対しても同じ確率を適用する。

#### 4) 洗髪拒否の解決方法

洗髪拒否で解決経験がある239件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

##### (1) 解決方法の概況

洗髪拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して40分類した。分類結果は、洗髪方法の工夫に関するものが15分類、声かけ・誘導の工夫に関するものが9分類、洗髪環境の調整に関するものが5分類、介助者の工夫に関するものが6分類、その他が5分類であった。

有効回答274件のなかで多くあがったものは、「声かけの態度を工夫」が177件(64.6%)、「お礼やねぎらい」が142件(51.8%)、「一部分から」が112件(40.9%)、「不安を除きながら」が107件(39.1%)、「湯温調整」が104件(38.0%)、「好きな話題で会話しながら」が102件(37.2%)、「単純な声かけ」が90件(32.8%)、「顔に湯がかからない工夫」が88件(32.1%)、「浴室温度調整」が77件(28.1%)、「介助者の工夫」が65件(23.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」が63件(23.0%)、「1人で」が61件(22.3%)、「洗髪の効能を説明」が59件(21.5%)、「洗髪後の手入れを行う」が56件(20.4%)などであり、1事例あたり平均5.5項目あげられた。(表2-6-4-1参照)

##### (2) 解決方法の組み合わせパターン

40分類のなかから1事例平均5.5の方法で構成された解決方法を実際の組み合わせに高い確率で近似するパターンを得るために潜在クラス分析を応用した(注3)。その結果18の組み合わせパターンを得た。

第1パターンは平均9.5項目の組み合わせであり、「温度調節」(99.9%)、「声かけの態度を工夫」(96.3%)、「お礼やねぎらい」(81.9%)、「一部分から」(89.2%)、「洗髪後の手入れを行う」(78.5%)の5項目を共通ベースとして、「不安を除きながら」(66.4%)、「好きな話題で会話しながら」(57.5%)、「浴室温度調整」(71.6%)の3項目も多く、「顔に湯がかからない工夫」(43.5%)、「湯船につか

ったり、洗身してから」(43.0%)、「1人で」(44.0%)、「コンプレックスを確認」(36.9%)などで構成されている。第1パターンの該当事例は31件(11.3%)である。

第2パターンは平均4.4項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(99.8%)を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」(74.8%)も多く、「不安を除きながら」(45.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」(38.2%)、「一部分から」(36.8%)、「単純な声かけ」(30.3%)、「好きな話題で会話しながら」(29.9%)、「洗髪の効能を説明」(25.5%)などで構成されている。第2パターンに該当する事例は25件(9.1%)である。

第3パターンは平均4.5項目の組み合わせであり、「洗髪の効能を説明」(84.0%)を共通ベースとして、「声かけの態度を工夫」(74.4%)も多く、「お礼やねぎらい」(33.5%)、「単純な声かけ」(29.9%)、「不安を除きながら」(37.9%)、「顔に湯がかからない工夫」(30.7%)、「好きなシャンプー、リンスを使用」(42.9%)、「浴室温度調整」(26.6%)などで構成されている。第3パターンに該当する事例は22件(8.0%)である。

第4パターンは平均5.1項目の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.9%)を共通ベースとして、「一部分から」(58.2%)も多く、「湯船につかったり、洗身してから」(41.9%)、「浴室温度調整」(43.7%)、「湯温調整」(42.4%)、「1人で」(46.2%)、「洗髪の効能を説明」(36.0%)、「コンプレックスを確認」(28.6%)などで構成されている。第4パターンに該当する事例は22件(8.0%)である。

第5パターンは平均4.0項目の組み合わせであり、「好きな話題で会話しながら」(99.5%)と「声かけの態度を工夫」(80.8%)を共通ベースとして、「介助者の工夫」(44.6%)、「一部分から」(26.5%)などで構成されている。第5パターンに該当する事例は21件(7.7%)である。

第6パターンは平均6.8項目の組み合わせであり、「浴室温度調整」(85.3%)、「お礼やねぎらい」(84.8%)、「不安を除きながら」(76.3%)の3項目を共通ベースとして、「一部分から」(70.6%)と「湯温調整」(72.5%)も多く、「単純な声かけ」(46.5%)、「声かけの態度を工夫」(42.6%)、「好きな話題で会話しながら」(38.0%)、「1人で」(46.8%)、「介助者の工夫」(35.3%)、「顔に湯がかからない工夫」(26.1%)などで構成されている。第6パターンに該当する事例は21件(7.7%)である。

第7パターンは平均2.7項目と最少の組み合わせであり、「不安を除きながら」(59.6%)と「顔に湯がかからない工夫」(50.9%)を主として、「単純な声かけ」(48.7%)、「声かけの態度を工夫」(37.4%)などで構成されている。第7パターンに該当する事例は21件(7.7%)である。

第8パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「単純な声かけ」(53.6%)

を主として、「一部分から」(43.8%)、「湯船につかったり、洗身してから」(28.8%)、「介助者の工夫」(44.6%)、「好きなシャンプー、リンスを使用」(21.7%)などで構成されている。第8パターンに該当する事例は20件(7.3%)である。

第9パターンは平均4.9項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(76.4%)、「湯温調整」(74.1%)、「複数のスタッフ」(55.9%)の3項目を主として、「好きな話題で会話しながら」(47.2%)、「単純な声かけ」(35.8%)、「声かけの態度を工夫」(28.9%)、「一部分から」(46.2%)、「顔に湯がかからない工夫」(30.8%)、「湯船につかったり、洗身してから」(25.7%)、「洗髪の効能を説明」(41.5%)などで構成されている。第9パターンに該当する事例は18件(6.6%)である。

第10パターンは平均5.9項目の組み合わせであり、「コンプレックスを確認」(99.0%)と「声かけの態度を工夫」(90.5%)を共通ベースとして、「お礼やねぎらい」(55.0%)、「不安を除きながら」(63.0%)、「介助者の工夫」(59.3%)の3項目も多く、「湯温調整」(42.6%)、「浴室温度調整」(26.9%)、「1人で」(35.1%)、「単純な声かけ」(33.8%)、「一部分から」(27.3%)などで構成される。第10パターンに該当する事例は11件(4.0%)である。

第11パターンは平均4.6項目の組み合わせであり、「洗髪後の手入れを行う」(98.8%)と「お礼やねぎらい」(80.9%)を共通ベースとして、「単純な声かけ」(55.1%)と「好きな話題で会話しながら」(54.3%)も多く、「声かけの態度を工夫」(44.8%)、「顔に湯がかからない工夫」(36.0%)、「仲の良い人と一緒に入浴」(26.8%)などで構成される。第11パターンに該当する事例は11件(4.0%)である。

第12パターンは平均8.7項目の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.8%)、「お礼やねぎらい」(99.7%)、「好きな話題で会話しながら」(89.8%)、「不安を除きながら」(99.4%)、「顔に湯がかからない工夫」(98.9%)、「湯温調整」(89.9%)の6項目を共通ベースとして、「単純な声かけ」(72.6%)も多く、「一部分から」(44.7%)、「湯船につかったり、洗身してから」(27.4%)、「浴室温度調整」(35.5%)、「介助者の工夫」(26.8%)などで構成されている。第12パターンに該当する事例は11件(4.0%)である。

第13パターンは平均7.0項目の組み合わせであり、「単純な声かけ」(99.4%)、「声かけの態度を工夫」(78.1%)、「洗髪後の手入れを行う」(87.5%)、「一部分から」(76.8%)、「浴室温度調整」(88.9%)の5項目を共通ベースとして、「湯温調整」(65.5%)も多く、「顔に湯がかからない工夫」(44.6%)、「不安を除きながら」(32.7%)、「複数のスタッフ」(45.0%)などで構成されている。第13パターンに該当する事例は9件(3.3%)である。

第14パターンは平均4.3項目の組み合わせであり、「1人で」(99.1%)を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」(63.8%)も多く、「お礼やねぎらい」(45.9%)、「声かけの態度を工夫」(31.0%)、「髪を染めるため」(46.2%)、「湯

船につかったり、洗身してから」(34.6%)、「顔に湯がかからない工夫」(29.1%)、「一部分から」(24.4%)などで構成されている。第14パターンに該当する事例は9件(3.3%)である。

第15パターンは平均4.8項目の組み合わせであり、「顔に湯がかからない工夫」(98.9%)、「好きな話題で会話しながら」(85.9%)、「お礼やねぎらい」(85.4%)の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」(37.0%)、「不安を除きながら」(24.3%)、「家族からの依頼」(24.9%)、「介助者の工夫」(37.7%)などで構成されている。第15パターンに該当する事例は8件(2.9%)である。

第16パターンは平均14.1項目と最多の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.6%)、「お礼やねぎらい」(99.5%)、「単純な声かけ」(99.2%)、「仲の良い人と一緒に入浴」(99.0%)、「1人で」と「介助者の工夫」が(各79.4%)、「好きなシャンプー、リンスを使用」(99.0%)、「洗髪後の手入れを行う」(99.1%)、「一部分から」(79.6%)、「湯船につかったり、洗身してから」(79.4%)の10項目を共通ベースとして、「顔に湯がかからない工夫」(59.7%)、「不安を除きながら」(59.8%)、「浴室温度調整」(59.6%)、「湯温調整」(59.8%)、「洗髪の効能を説明」(59.6%)、「コンプレックスを確認」(59.5%)なども多く、「好きな話題で会話しながら」(39.9%)、「家族と」(39.6%)などで構成されている。第16パターンに該当する事例は5件(1.8%)である。

第17パターンは平均4.8項目の組み合わせであり、「声かけの態度を工夫」(99.6%)、「複数のスタッフ」(99.0%)、「顔に湯がかからない工夫」(79.3%)の3項目を共通ベースとして、「湯船につかったり、洗身してから」(39.4%)、「お礼やねぎらい」(39.9%)、「浴室温度調整」(40.1%)、「コンプレックスを確認」(40.0%)などで構成されている。第17パターンに該当する事例は5件(1.8%)である。

第18パターンは平均6.8項目の組み合わせであり、「お礼やねぎらい」(99.3%)、「好きな話題で会話しながら」(99.1%)、「仲の良い人と一緒に入浴」(98.7%)、「1人で」(75.1%)の4項目を共通ベースとして、「洗髪後の手入れを行う」(74.0%)、「一部分から」(50.7%)、「声かけの態度を工夫」(50.7%)の3項目も多く、「顔に湯がかからない工夫」(25.3%)、「コンプレックスを確認」(25.2%)、「医者からの指示」(25.0%)、「洗髪の効能を説明」(23.9%)などで構成されている。第18パターンに該当する事例は4件(1.5%)である。(表2-6-4-2参照)  
(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-6-4-3参照)

(注3) 組み合わせパターンへの潜在クラス分析の応用

潜在クラス分析は(注1)に示したような局所独立を仮定して異質な部分集団を識別し、モデルの適切さを情報量規準で評価するのが一般的である。ここでは組み合わせパターンを一定水準以上に明確にすることを優先して、情報量規準によるモデル評価をある程度逸脱するのも良しとした。しかしながらモデルの極度な不適切を回避するために、“LatentGold”が算出する“Classification Statistics”(分類精度情報)の各指標を総合的に評価して局所独立の追及を優先したモデルを定めた。

ここで表す各パターンの該当件数も確率から整数換算した結果である。

(3) 解決方法の組み合わせパターンの貢献

このような解決方法がどんな結果に貢献するのか、18の組み合わせパターンと解決後のパターンの相関を分析した後、参考までに個別状況との関連を確認する。

まず、解決方法の組み合わせ18パターンと解決後の5パターンの帰属確率による相関分析を行うと、4通りの相関が認められる。

1つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン1は、“「温度調節」、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「一部分から」、「洗髪後の手入れを行う」の5項目を共通ベースとした平均9.5項目の組み合わせ”であり、その多様な方法が、解決後パターン4の“後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した”という結果に貢献している傾向が読み取れる。

2つめは、解決方法パターン10と解決後パターン5の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン10は、“「コンプレックスを確認」と「声かけの態度を工夫」を共通ベースにした平均5.9項目の組み合わせ”であり、これらの方法が、解決後パターン5の“洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった”に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン7と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン7は、“「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主とした平均2.7項目と最少の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン2の“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”に貢献している傾向が読み取れる。

4つめは、解決方法パターン14と解決後パターン2の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン14は、“「1人で」を共通ベースとして、「コンプレックスを確認」も多い、平均4.3項目の組み合わせ”であり、その方法が、解決後パターン2の“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”に貢献している傾向が読み取れる。(表2-6-4-4参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によっても、上記4

通りの傾向が確認できる。

1 つめの解決方法パターン 1 では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が 76.3%と多くなっており、これは解決後パターン 4 の主要項目である。

2 つめの解決方法パターン 10 では、解決後に“自分で洗髪するようになった”が 22.7%と他のパターンより多くなっており、これは解決後パターン 5 の主要項目である。

3 つめの解決方法パターン 7 では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が 61.5%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

4 つめの解決方法パターン 14 では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が 61.2%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

(表 2-6-4-5 参照)

#### (4) 高齢者パターン別にみた、解決方法の組み合わせパターンの貢献

次に高齢者パターン 1 (一部介助、中程度重症度)に限定した相関分析を行うと、3通りの相関が認められる(注 4)。

1 つめは、解決方法パターン 7 と解決後パターン 2 の相関が有意水準 1%で認められる。これは上記でみた全体的傾向の 3 つめと同様の傾向である。

2 つめは、解決方法パターン 12 と解決後パターン 3 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 12 は、“「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の 6 項目を共通ベースとした平均 8.7 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 3 の“暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった”に貢献している傾向が読み取れる。

3 つめは、解決方法パターン 8 と解決後パターン 4 の相関が有意水準 1%で認められる。解決方法パターン 8 は、“「単純な声かけ」を主として、「一部分から」、「湯船につかったり、洗身してから」、「介助者の工夫」、「好きなシャンプー、リンスを使用」などで構成された平均 2.9 項目の組み合わせ”であり、それらの方法が、解決後パターン 4 の“後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した”に貢献している傾向が読み取れる。(表 2-6-4-6 参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこれらの傾向が確認できる。

解決方法パターン 7 では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が 76.2%と多くなっており、これは解決後パターン 2 の主要項目である。

解決方法パターン 12 では、解決後に“入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた”が 87.5%、“徐々に洗える日が多くなった”が 74.3%、“洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した”が 61.0%と多くなっており、これらは解決後パターン 3 の主要項目である。

解決方法パターン 8 では、解決後に“後ろ髪は嫌がらずに洗えた”が 27.2%と



他のパターンより多くなっており、これは解決後パターン2の主要項目である。(表2-6-4-7参照)

また高齢者パターン2(全介助、中高程度重症度)に限定した相関分析を行うと、3通りの相関が認められる。

1つめは、解決方法パターン1と解決後パターン4の相関が有意水準1%で認められる。これは全体でみた、1つめの傾向と同様である。

2つめは、解決方法パターン7と解決後パターン5の相関が有意水準1%で認められる。解決方法パターン7は、「不安を除きながら」と「顔に湯がかからない工夫」を主とした平均2.7項目と最少の組み合わせであり、その方法が、解決後パターン5の「洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった」に貢献している傾向が読み取れる。

3つめは、解決方法パターン12と解決後パターン1の相関が有意水準5%で認められる。解決方法パターン12は、「声かけの態度を工夫」、「お礼やねぎらい」、「好きな話題で会話しながら」、「不安を除きながら」、「顔に湯がかからない工夫」、「湯温調整」の6項目を共通ベースとした平均8.7項目の組み合わせであり、それらの方法が、解決後パターン1の「徐々に洗える日が多くなった」に貢献している傾向が読み取れる。(表2-6-4-8参照)

参考までに、解決後の各状況との関連を分析したクロス集計によってもこの3通りの傾向が確認できる。

1つめの解決方法パターン1では、解決後に「入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた」が83.1%と多く、「後ろ髪は嫌がらずに洗えた」も27.4%と他のパターンを上回っており、解決後パターン4の主要項目が多くあがっている。

2つめの解決方法パターン7では、解決後に「徐々に洗える日が多くなった」が64.0%と多く、「自分で洗髪するようになった」も15.6%と他のパターンを上回っており、解決後パターン5の主要項目が多くあがっている。

3つめの解決方法パターン12では、解決後に「徐々に洗える日が多くなった」が99.8%であり、解決後パターン1の主要項目が多くあがっている。(表2-6-4-9参照)

高齢者パターン3(自立、軽中程度重症度)は事例数が少ないので省略する。

(注4) 高齢者パターン別分析の配慮

高齢者パターンと解決方法パターンの双方を潜在確率のまま解決後の状況とのクロス集計不能につき、ここでは便宜的に高齢者パターン1と2を明確に離散した。具体的には、高齢者パターンの潜在確率が大きい方に各事例を定義(=クラスター化)した上で、解決方法パターンと解決後の状況のクロス集計を行った。このクロス集計でも前記同様に帰属確率を用いた。

## 5) 洗髪拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,328 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

### (1) 役立った情報の概況

有効回答 1,328 件のなかで多くあがったものは、「本人の気持ち、意志」が 518 件 (39.0%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 453 件 (34.1%)、「気分」が 341 件 (25.7%)、「スタッフとの関係」が 314 件 (23.6%)、「洗髪への反応・様子」が 197 件 (14.8%)、「湯温」が 172 件 (13.0%)、「性格」が 137 件 (10.3%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 2.6 項目あげられた。(表 2-6-5-1 参照)

### (2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 19 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.0 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(99.8%) を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(40.6%) 他で構成されている。第 1 パターンの該当方法は延べ 176 件 (13.3%) である。

第 2 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「気分」(99.9%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(56.5%) も多く、「興味・関心」(20.6%) を含めた“心理面”にウェイトを置いて、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(20.1%) 他で構成されている。第 2 パターンの該当方法は延べ 158 件 (11.9%) である。

第 3 パターンは平均 2.5 項目の組み合わせであり、「湯温」(99.4%) を共通ベースとして、「シャワーの水圧」(34.7%)、「浴室の温度」(30.9%) などを含めた“入浴・洗髪方法”にウェイトを置いて構成されている。第 3 パターンの該当方法は延べ 124 件 (9.3%) である。

第 4 パターンは平均 2.3 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.7%) を共通ベースとして、「洗髪への反応・様子」(27.1%)、「スタッフとの関係」(23.1%) などで構成されている。第 4 パターンの該当方法は延べ 117 件 (8.8%) である。

第 5 パターンは平均 2.1 項目の組み合わせであり、「洗髪への反応・様子」(55.0%) を主として、「清潔度」(24.4%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(20.9%) などで構成されている。第 5 パターンの該当方法は延べ 101 件 (7.6%) である。

第 6 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」

(99.2%)と「スタッフの声かけ内容・見守り方」(84.1%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(56.2%)も多く、「気分」(37.2%)、「性格」(28.3%)などで構成されている。第6パターンの該当方法は延べ97件(7.3%)である。

第7パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「性格」(48.7%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(22.1%)他に分散して構成されている。第7パターンの該当方法は延べ92件(6.9%)である。

第8パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(82.2%)を共通ベースとして、「介護者の性別」(50.6%)も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.8%)などで構成されている。第8パターンの該当方法は延べ61件(4.6%)である。

第9パターンは平均3.0項目の組み合わせであり、「洗髪習慣(自宅での方法)」(99.1%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(50.9%)も多く、「気分」(22.7%)、「過去の入浴体験」(22.6%)などで構成されている。第9パターンの該当方法は延べ56件(4.2%)である。

第10パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「認知機能」(85.1%)、「言語理解」(35.1%)、「本人の気持ち、意志」(30.2%)、「気分」(22.1%)などで構成されている。第10パターンの該当方法は延べ56件(4.2%)である。

第11パターンは平均1.7項目と最少の組み合わせであり、「他の入居者との関係」(41.8%)、「過去の入浴体験」(34.2%)他に構成されている。第11パターンの該当方法は延べ50件(3.8%)である。

第12パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見守り方」と「本人の気持ち、意志」(各99.7%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(15.3%)などで構成されている。第12パターンの該当方法は延べ48件(3.6%)である。

第13パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「清潔度」(75.6%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(46.5%)、「皮膚疾患」(25.8%)、「洗髪への反応・様子」(31.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(22.4%)などで構成されている。第13パターンの該当方法は延べ46件(3.5%)である。

第14パターンは平均1.9項目の組み合わせであり、「浴室の温度」(99.5%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(26.6%)他に構成されている。第14パターンの該当方法は延べ38件(2.9%)である。

第15パターンは平均3.7項目の組み合わせであり、「興味・関心」(74.5%)と「気分」(61.1%)を主として、「本人の気持ち、意志」(40.9%)を含めた“心理面”にウェイトを置き、「入浴のこだわり」(20.9%)、「入浴時間帯」(20.3%)、「スタッフとの関係」(33.5%)などで構成されている。第15パターンの該当方法は延べ29件(2.2%)である。

第16パターンは平均2.3項目の組み合わせであり、「入浴のこだわり」(97.1%)

を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(28.2%)、「気分」(19.4%)などで構成されている。第16パターンの該当方法は延べ29件(2.2%)である。

第17パターンは平均2.4項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(65.7%)を主として、「入浴時間帯」(42.0%)、「介助者の人数」(22.3%)などで構成されている。第17パターンの該当方法は延べ23件(1.7%)である。

第18パターンは平均4.6項目と最多の組み合わせであり、「気分」(99.6%)、「本人の気持ち、意志」(78.5%)、「湯温」(81.1%)の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(44.3%)、「シャワーの水圧」(39.2%)、「浴室の温度」(22.9%)、「洗髪への反応・様子」(31.8%)、「過去の入浴体験」(26.2%)などで構成されている。第18パターンの該当方法は延べ21件(1.6%)である。

第19パターンは平均4.2項目の組み合わせであり、「洗髪した日」(98.2%)、「本人の気持ち、意志」(80.4%)、「気分」(78.7%)の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(34.1%)、「洗髪拒否の開始時期」(31.3%)、「床屋に行った日」(31.3%)などで構成されている。第19パターンの該当方法は延べ6件(0.5%)である。(表2-6-5-2参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表2-6-5-3参照)

### (3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析すると次の傾向である。

第14パターン(「浴室の温度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」他で構成された平均1.9項目の組み合わせ)は、「浴室温度調整」が79.5%と多い。

第3パターン(「湯温」を共通ベースとして、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」などを含めた“入浴・洗髪方法”にウェイトを置いて構成された平均2.5項目の組み合わせ)は、「湯温調整」が39.7%、「一部分から」が21.4%と多い。

第13パターン(「清潔度」を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」、「皮膚疾患」、「洗髪への反応・様子」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均3.5項目の組み合わせ)は、「洗髪の効能を説明」が34.7%と多い。

第10パターン(「認知機能」、「言語理解」、「本人の気持ち、意志」、「気分」などで構成された平均2.9項目の組み合わせ)は、「単純な声かけ」が32.2%と多い。

第19パターン(「洗髪した日」、「本人の気持ち、意志」、「気分」の3項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「洗髪拒否の開始時期」、「床屋に行った日」などで構成された平均4.2項目の組み合わせ)は、「声かけの態度を工夫」が31.9%と多い。

第1パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」他で構成された平均2.0項目の組み合わせ)は、「声かけの態度を工夫」が28.0%と多い。

第11パターン(「他の入居者との関係」、「過去の入浴体験」他で構成された平

均 1.7 項目と最少の組み合わせ)は、「仲の良い人と一緒に入浴」が 26.1%と多い。

第 16 パターン(「入浴のこだわり」を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「気分」などで構成された平均 2.3 項目の組み合わせ)は、「湯船につかったり、洗身してから」が 25.2%と多い。

第 18 パターン(「気分」、「本人の気持ち、意志」、「湯温」の 3 項目を共通ベースとして、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「シャワーの水圧」、「浴室の温度」、「洗髪への反応・様子」、「過去の入浴体験」などで構成された平均 4.6 項目と最多の組み合わせ)は、「湯温調整」が 24.1%と多い。

第 8 パターン(「スタッフとの関係」を共通ベースとして、「介護者の性別」も多く、「スタッフの声かけ内容・見守り方」などで構成された平均 2.7 項目の組み合わせ)は、「介助者の工夫」が 24.2%、「声かけの態度を工夫」が 21.6%と多い。

第 6 パターン(「本人の気持ち、意志」と「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」も多く、「気分」、「性格」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ)は、「声かけの態度を工夫」が 20.1%と多い。

(表 2-6-5-4 参照)

#### 6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 270 件中、「無理矢理裸にして拭く」が 249 件 (92.2%)、「本人の気分を無視して行う」が 247 件 (91.5%)、「汚い、臭いから拭きましょうと声をかける」が 227 件 (84.1%)、「放っておいて全く関わらない」が 213 件 (78.9%)、「だますような声かけをする」が 179 件 (66.3%) となっている。(表 2-6-6-1 参照)

(表 2-6-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	285	21	42	45	29	28	37	34	27	22
パーセント	100.0	7.4	14.7	15.8	10.2	9.8	13.0	11.9	9.5	7.7

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
285	41.4	12.8	19	88

(表 2-6-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	291	75	216
パーセント	100.0	25.8	74.2

(表 2-6-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	275	144	10	73	6	64
パーセント	100.0	52.4	3.6	26.5	2.2	23.3

(表 2-6-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	270	16	93	72	1	1	95
パーセント	100.0	5.9	34.4	26.7	0.4	0.4	35.2

(表 2-6-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	283	19	170	15	94	125	33
パーセント	100.0	6.7	60.1	5.3	33.2	44.2	11.7

(表 2-6-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	283	3	2	277	1	2
パーセント	100.0	1.1	0.7	97.9	0.4	0.7

(表 2-6-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
288	4.2	2.7	0.1	15.0

(表 2-6-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
282	8.6	5.2	0.5	29.5

(表 2-6-2-1) 洗髪拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	291	276	15
パーセント	100.0	94.8	5.2

(表 2-6-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上
実数	262	16	33	68	85	60
パーセント	100.0	6.1	12.6	26.0	32.4	22.9

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
262	84.6	6.9	46	99

(表 2-6-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	271	30	241
パーセント	100.0	11.1	88.9

(表 2-6-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイム一型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	257	170	45	4	8	30
パーセント	100.0	66.1	17.5	1.6	3.1	11.7

(表 2-6-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	無回答(=なし)
実数	276	0	5	45	3	223
パーセント	100.0	0.0	1.8	16.3	1.1	80.8

(表 2-6-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	258	4	44	210
パーセント	100.0	1.6	17.1	81.4

(表 2-6-2-7) 移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他(回答者追記)
実数	235	28	120	82	5
パーセント	100.0	11.9	51.1	34.9	2.1

(表 2-6-2-8) 排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし
実数	236	91	145
パーセント	100.0	38.6	61.4

(表 2-6-2-9) 入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	263	36	18	118	66	25
パーセント	100.0	13.7	6.8	44.9	25.1	9.5

(表 2-6-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多 少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	274	32	73	95	66	8
パーセント	100.0	11.7	26.6	34.7	24.1	2.9

(表 2-6-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活を主体で座位を保つ	一日中ベッドで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	265	44	190	28	3
パーセント	100.0	16.6	71.7	10.6	1.1



(表 2-6-2-12) 洗髪拒否高齢者のパターン  
(潜在クラス3クラスモデルのプロフィール)

(n=229)

項目	カテゴリ	全体	パターン1	パターン2	パターン3
			一部介助、 中程度重症度	全介助、中 高程度重症度	自立、軽中 度重症度
サイズ		1.000	0.631	0.289	0.080
性別	男	0.109	0.054	0.207	0.192
	女	0.891	0.946	0.793	0.808
入浴介助	全介助	0.144	0.016	0.463	0.003
	移動介助	0.066	0.068	0.077	0.001
	洗身洗髪介助	0.467	0.505	0.430	0.307
	その他一部介助	0.231	0.328	0.030	0.203
	自立	0.092	0.084	0.001	0.485
認知症の 重症度	I	0.105	0.097	0.007	0.525
	II	0.275	0.407	0.003	0.217
	III	0.362	0.377	0.411	0.075
	IV	0.227	0.117	0.526	0.013
	V	0.031	0.003	0.053	0.171
身体障害の 重症度	J	0.153	0.133	0.002	0.860
	A	0.721	0.867	0.578	0.081
	B	0.114	0.000	0.375	0.059
	C	0.013	0.000	0.045	0.000

(参考)該当事例数 → (229) (144) (66) (18)

(表 2-6-2-13) 潜在クラスモデル評価 (洗髪拒否高齢者パターン)  
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1872.2	1831.0
モデル2(クラス数2)	1847.2	1761.3
モデル3(クラス数3)	1888.2	1757.8
モデル4(クラス数4)	1945.7	1770.6

(表2-6-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	大きな声を出して拒否していた	顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	脱衣することを嫌がった	湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	シャンプーはできても、流すことができなかった	洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	その他
実数	275	114	116	141	81	64	14	28	30
パーセント	100.0	41.5	42.2	51.3	29.5	23.3	5.1	10.2	10.9

(表2-6-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	徐々に洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えた	理容室では洗髪できた	洗ってほしいと訴えることもできた	自分で洗髪するようになった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した	その他
実数	273	147	16	9	12	15	149	65	24
パーセント	100.0	53.8	5.9	3.3	4.4	5.5	54.6	23.8	8.8

(表2-6-3-3) 洗髪拒否の解決前のパターン

(潜在クラス5クラスモデルのプロフィール)

状況	全体	(n=210)				
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
サイズ	1.000	0.344	0.256	0.177	0.159	0.064
大きな声を出して拒否していた	0.419	0.154	0.631	0.292	0.825	0.337
顔をふって嫌がったり、手で払いのけてしまっていた	0.448	0.117	0.843	0.040	0.988	0.420
入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.543	0.998	0.164	0.237	0.493	0.585
脱衣することを嫌がった	0.295	0.011	0.406	0.624	0.450	0.085
湯が頭にかかることを嫌がり、立ち上がってしまうことがあった	0.238	0.004	0.009	0.459	0.960	0.010
シャンプーはできても、流すことができなかった	0.038	0.000	0.020	0.052	0.149	0.001
洗髪できても、入浴後も機嫌が悪かった	0.086	0.002	0.001	0.001	0.182	0.874

(参考) 平均項目数 → 2.1 1.3 2.1 1.7 4.0 2.3

該当事例数 → (210) (72) (54) (37) (33) (13)

(表2-6-3-4) 潜在クラスモデル評価 (洗髪拒否の解決前パターン)  
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1577.6	1554.2
モデル2(クラス数2)	1503.0	1452.8
モデル3(クラス数3)	1524.1	1447.1
モデル4(クラス数4)	1552.3	1448.5
モデル5(クラス数5)	1580.9	1450.3
モデル6(クラス数6)	1617.3	1460.0
モデル7(クラス数7)	1650.8	1466.7

(表2-6-3-5) 洗髪拒否の解決後のパターン  
(潜在クラス5クラスモデルのプロフィール)

(n=210)

状況	全体	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
		徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなった、自分で洗髪するようになった
サイズ	1.000	0.340	0.270	0.215	0.091	0.084
徐々に洗える日が多くなった	0.567	0.998	0.054	0.651	0.360	0.476
後ろ髪は嫌がらずに洗えた	0.067	0.032	0.000	0.022	0.560	0.001
理容室では洗髪できた	0.029	0.023	0.020	0.001	0.169	0.001
洗ってほしいと訴えることもできた	0.043	0.043	0.000	0.000	0.074	0.253
自分で洗髪するようになった	0.062	0.013	0.002	0.023	0.001	0.620
入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	0.548	0.232	0.998	0.645	0.447	0.237
洗髪時や誘導時の暴言・暴力等が減少した	0.271	0.006	0.030	0.976	0.559	0.005
(参考)平均項目数 →	1.6	1.3	1.1	2.3	2.2	1.6
該当事例数 →	(210)	(71)	(57)	(45)	(19)	(18)

(表2-6-3-6) 潜在クラスモデル評価 (洗髪拒否の解決後パターン)  
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1188.8	1165.3
モデル2(クラス数2)	1186.3	1136.1
モデル3(クラス数3)	1199.4	1122.4
モデル4(クラス数4)	1228.5	1124.7
モデル5(クラス数5)	1259.0	1128.4
モデル6(クラス数6)	1296.2	1138.9
モデル7(クラス数7)	1331.6	1147.5

(表2-6-3-7) 解決前後のパターンの相関行列  
(全体)

(n=210)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
解決前のパターン	パターン1	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.230 **	-0.031	-0.276 **	-0.132	0.195 **
	パターン2	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	-0.084	-0.062	0.175 *	0.063	-0.072
	パターン3	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	-0.047	0.222 **	-0.118	-0.039	-0.083
	パターン4	複合的洗髪拒否	-0.163 *	-0.111	0.270 **	0.123	-0.047
	パターン5	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった	0.012	0.015	0.001	0.019	-0.068

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

(有意水準) 1%水準 \*\*

5%水準 \*

(表2-6-3-8) 解決前後のパターンの相関行列  
(高齢者パターン1 “一部介助、中程度重症度” の場合)

(n=140)

			解決後のパターン				
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
			徐々に洗える日が多くなった	入浴への誘導、洗髪に抵抗が薄れた	暴言・暴力等が減少し、抵抗が薄れ、洗える日が多くなった	後ろ髪は嫌がらずに洗えたり、暴言・暴力等が減少した	洗える日が多くなったり、自分で洗髪するようになった
解決前のパターン	パターン1	入浴はするが、洗髪は嫌がっていた	0.168 *	-0.020	-0.256 **	-0.114	0.207 *
	パターン2	手で払いのけ、大声で拒否したり、脱衣を嫌がったり	-0.086	-0.048	0.171 *	0.146	-0.139
	パターン3	脱衣を嫌がったり、湯が頭にかかることを嫌がっていた	-0.038	0.117	-0.083	0.038	-0.051
	パターン4	複合的洗髪拒否	-0.139	-0.060	0.244 **	0.036	-0.032
	パターン5	手で払いのけたり、洗髪は嫌がって、入浴後も機嫌悪かった	0.020	0.023	0.051	-0.083	-0.079

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

(有意水準) 1%水準 \*\*

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法制約上の配慮)

5%水準 \*

(帰属確率によるパターン1の事例数に近似するもやや異なる)